

令和7年第4回定例
夕張市議会会議録
令和7年12月4日(木曜日)
午前10時30分開議

◎議事日程

第1 一般質問

◎出席議員(8名)

徳谷 康 憲 君
荒井 周 司 君
工藤 政 則 君
君島 孝 夫 君
櫻井 暁 君
千葉 勝 君
高間 澄 子 君
大山 修 二 君

◎欠席議員(0名)

午前10時30分 開議

●議長 大山修二君 ただいまから、令和7年第4回定例夕張市議会第2日目の会議を開きます。

●議長 大山修二君 本日の出席議員は8名全員であります。

●議長 大山修二君 本日の会議録署名議員は、会議規則第125条の規定により

徳谷議員

荒井議員

を指名いたします。

●議長 大山修二君 ここで、事務局長から諸般の報告をいたします。

●事務局長 堀 靖樹君 報告いたします。

本定例市議会に出席を求めた説明員の一覧につきましては、さきに報告のとおりであります。

なお、押野見教育課長は、所用のため本日出席できない旨の届出がなされております。

以上で報告を終わります。

「別紙」

市長 厚谷 司 君

教育長 小林 広明 君

◎市長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

副市長 吉崎 仁司 君

総務企画課長 板垣 克巳 君

地域振興課長 瀧口 健太 君

財政課長 芝木 誠二 君

税務課長 秋山 俊輔 君

建設課長 佐藤 浩一 君

土木課長 阿部 充雅 君

上下水道課長 矢久保 六玄 君

市民課長 外崎 伸一 君

保健福祉課長 鈴木 茂徳 君

生活福祉課長兼福祉事務所長

平塚 浩一 君

消防長 松倉 暢宏 君

消防署長 鈴木 剛士 君

◎教育委員会教育長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

教育課長 押野見 正浩 君

◎選挙管理委員会委員長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 板垣 克巳 君

◎農業委員会会長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 山本 健彦 君

◎監査委員の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 堀 靖樹 君

◎本議会の書記の職・氏名

事務局長 堀 靖樹 君

書記 志 茂 隆 君

書記 増 井 菜々実 君

●議長 大山修二君 本日の日程は、お手元に配付しているプリントのとおりであります。

それでは、直ちに日程に従って会議を進行いたします。

●議長 大山修二君 日程第1、一般質問を行います。

一般質問の通告は5名7件であります。

質問の順序は、千葉議員、高間議員、徳谷議員、君島議員、櫻井議員であります。

それでは、千葉議員の質問を許します。

千葉議員。

●千葉 勝君（登壇） 千葉勝です。

通告に従い、夕張高校の存続の取組について、5点、市長に伺います。

本日、夕張高校1年生が傍聴に来ておりますので、前向きなご答弁をお願いいたします。

夕張市は生徒数が減少している夕張高校が廃校となった場合、まちの将来への影響の大きさを考え、市内外問わず生徒に選んでもらえる魅力ある学校とするため、平成28年度の財政再生計画の抜本的見直しにおいて、夕張高校魅力化プロジェクトを主要施策として位置づけ、夕張の未来を担う高校生が夕張高校に集い、地域の活動となるよう、地域一丸となって育てていくことを目指し、挑戦する生徒を応援する取組を行ってきました。

しかし、夕張中学校からの入学者は、地方版総合戦略の目標である70%には達していない。

最初に、1点目の高校授業料無償化、私立高校の無償化の影響についてお伺いいたします。

国は、2025年度から公立高校の授業料が所得制限なしで無償化されました。2026年4月には、私立高校についても所得制限が撤廃され、就学支援金の上限も私立高校授業料平均額にまで引き上げられ、私立高校の実質無償化が始まる見通しとなっています。

高校授業料無償化は、全ての意志ある高校生が安心して勉学に打ち込める社会をつくることと、家庭の教育費負担軽減による少子化の歯止め等が意図さ

れていると考える。

この私立高校授業料無償化政策により、子どもたちにとって経済的な理由から選択しづらかった私立高校が選択しやすくなり、公立高校離れが進むであろうとの声が聞かれます。

この私立高校授業料無償化拡充方針を受け、北海道教育委員会は、道内全ての中学生と保護者を対象としたアンケートを実施しました。

その結果、無償化拡充方針により、公立高校から私立高校へ進路希望を見直した割合が、中学生で14.9%、保護者が21.6%に上がったと北海道教育委員会から発表されました。このアンケートは、市長も結果についてはご存じかと考えます。

アンケート結果を受け、道教委は公立に入学する生徒が減る可能性が考えられる公立のPRなど、魅力化に向けて取り組むと述べています。

そこで、この私立高校授業料無償化拡充方針は、夕張高校にも影響が出るのではないかと考えますが、市長のお考えをお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 ただいまの千葉議員の私立高校授業料無償化による夕張高校への影響に関するご質問にお答えをいたします。

いわゆる高校の無償化につきましては、授業料を無償化するというものでございます。高校の場合、授業料以外にも入学金や制服代、教材費、英検などの民間試験、模擬試験の費用など、様々な費用がかかるわけでありまして。

本市におきましては、高校魅力化事業として夕張高校に進学する生徒さんに制服と教材費を入学支度金として、また英検などの資格取得や模擬試験、進路、教科、課外活動の費用、こちらを高校生チャレンジ補助金として支援してございます。

ただいま議員からご指摘がございました国の方針による夕張高校への影響というのは考えられるものでございますが、私どもとしては、引き続き授業料以外の支援等を通じて、夕張高校存続のための魅力化事業を推進して参りたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
千葉議員。

●千葉 勝君 国の方針による私立高校授業料無償化による夕張高校への影響も考えられるとの答弁だったかと思えます。

道教委が行ったアンケート調査は、本市の中学生もアンケートに参加されたと考えます。9月の道議会で授業料無償化に関するアンケート結果について、公立高校から私立高校への進路変更が見られるなど、授業料の無償化が道立高校の入学者に一定程度影響を与えるものと考えており、高校の魅力化をより一層推進するため、新たな取組を早急に進める必要があると認識しております。

このため、アンケート結果を踏まえた対応等について、各校長から聞き取りを行うほか、地域との連携協働による魅力を進めるため、各学校の主体的な取組を促したところでございますと、道教委は道議会で答弁しております。

そこで、このアンケート結果や北海道教育委員会の道議会答弁を受け、夕張高校と新たな取組について協議されたのかお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 ただいまの千葉議員の再質問にお答えをいたします。

令和7年9月12日の北海道議会で高校の授業料無償化に関するアンケート結果といたしまして、公立高校から私立高校へ進路を見直すと回答した割合が、道内全体で中学生が14.9%、保護者が21.6%となっておりまして、高校を選ぶ際に考慮する点として、学費や経済的負担、高校卒業後の進路、自分又は子どもの学力などの割合が高い結果となっておりまして、答弁がなされております。

北海道教育委員会の取組として高校魅力化創出委員会が始まったことを受けまして、夕張高校でも高校の情報発信を強化するための実働チームが発足をし、市長である私もメンバーの1人となっております。

夕張高校の魅力化は現在進行形で取り組んでいる

状況でございますので、引き続き高校との連携を強め、魅力化に向けての取組を進めて参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
千葉議員。

●千葉 勝君 高校のほうと市長も入って、情報発信のために協議をしているということですので、今後とも市民に対しての情報発信をよろしくお願ひしたいと思います。

次に、2点目の第2期地方版総合戦略の取組の進捗状況と今後の取組についてお伺いいたします。

第2期地方版総合戦略は、令和6年3月に期間の2年延長を行い、令和8年度までの7年間を対象として取り組まれることとなったと承知しております。

第2期地方版総合戦略の夕張の未来をつくるプロジェクトの夕張高校への地元からの進学率70%の目標を達成するとあります。

夕張中学校から入学者は、令和元年度以降46%から最大で67%で推移し、目標の70%は達成していません。令和元年度以降、夕張市外の高校に行った生徒は、7年間で90名ぐらいただと認識しております。

10月17日、夕張高校3年生の総合的な探究の時間の全体報告会で、「理想の夕張をつくる」のテーマで夕張中学校からの進学率を増やす取組の報告がされました。

この報告のアンケート調査で、夕張高校への入学を希望する生徒は52%、保護者も67%との報告がされました。夕張高校生徒が夕張高校の魅力を生市内市外に発信していくことが、今後の生徒確保につながっていくのではないかと考えます。

そこで、地元進学率の数値目標達成のためには、地元ではなく市外の高校を選択している理由をどのように分析しているのか、市長にお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の夕張高校への地元進学率に関するご質問にお答えをいたします。

本市では、夕張高校存続のために地方版総合戦略の中で地元進学率を設定しており、本年度の夕張高校への地元進学率は約66%と目標の70%に比較的近

い数値となっております。

その上で、進路希望調査等を通じまして、夕張高校以外の進路を検討する理由も把握しているところでございますが、専門的な学科への進学でありますとか、部活動の種類などがございまして、現状の学校規模、こちらを考慮しますと、これらの希望をかなえるということは困難だと考えております。

その上で、子どもたちが自己実現のために様々な進路を選択するということが大変喜ばしいことでございますが、夕張高校がより選ばれる進学先となるよう、高校だけではなく中学校とも連携をしながら、魅力化事業を進めて参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 先ほど、10月17日の夕張高校3年生の総合的な探究の時間の全体報告会で、夕張中学校からの進学率を増やす取組という報告がありました。

高校生が頑張っているのではないかと思いますけれども、そこで、夕張市として近隣中学校や道内の中学校から進学率を増やすために、どのような取組を行っているのか、お伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

私は別用務がございまして、この報告会には参加できなかったのですが、生徒さんが作られたプレゼン動画については拝見をさせていただいております。

その中で、高校生が中学校に行くことができなかったということですが、その部分につきましては中学生が視聴できるように今依頼をしていると、そのように伺っております。

また、市として近隣の中学校からの進学への働きかけということでございますが、現在、地域みらい留学に向けた受入れ整備をこれまで進めてきた中で、近隣中学校からの進学につながったというケースもございます。

立地を踏まえますと、進学に向けた条件が厳しい部分もございましてけれども、道外からの生徒の受入れと併せて、引き続き検討をして参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 当日、市長は参加できなかったけれども、そのプレゼン動画については見たということですが、現在今、中学校のほうに何とか働きかけをして依頼していますので、ぜひとも実現するようにお願いしたいと思います。

次に、夕張高校以外の進路を選択する理由として、先ほどの答弁で専門的な学科への進学、部活動の種類があるが、夕張高校の学校規模を考えると、希望をかなえることは難しいとの答弁だったと思います。

北海道教育委員会は、社会の変化や生徒の多様なニーズなどに対応するため、学校や地域の実情に応じて総合学科や単位制、中高一貫教育などの多様なタイプの高校づくりを進めております。

夕張高校は普通科で、進学と就職・専門学校進学コースを取られているが、市外に通う生徒を夕張高校に進学させるためには、道教委が進めている多様なタイプの高校の導入も検討すべきと考えるが、この点について夕張高校と協議したことがあるのかお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

具体的な協議はしてございませんが、高校さん側とは、日頃情報交換を行う中でお話をしたことはございます。

現在、夕張高校では習熟度別学習でありますとか、少人数教育を柱に構成を設定し、進路別カリキュラムを組んで、進路実現に向けた学習を推進されているところでございます。

1年生は共通学科で基礎を学び、2、3年生では大学進学コースと就職・専門学校進学コースに分かれ、生徒一人一人のニーズに合った進路指導の結果、ここ数年、国公立大学にも複数の合格者を出している

ように、その成果が出ているものと実感をしており
ます。

北海道が推進する特色ある高校づくりとして、多
様なタイプの高校があるということについては認識
してございますが、今後も夕張高校と連携しながら、
まずは現在の取組。やはり夕張高校の強みというの
は、少人数で学校教職員の先生方も含め、非常に丁
寧な授業をし、生徒の皆さんをサポートしていただ
いていると思います。

そのような中で進路実現を柱として、教育活動を
進めているということは、やはり大きな強みでござ
いますから、ここを大切にしていだけるように市
もしっかりサポートをしていきたいというのが考え
でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
千葉議員。

●千葉 勝君 先ほどの答弁の中で、市外に行く
進路を検討する理由として、市外の高校に行く理由
の中に部活動の種類があったと思います、答弁の中
で。

現在、国は部活動の地域移行を検討していると私
は認識していますし、夕張市においても中学校の部
活動を地域移行の検討を行っていると考えます。

今日、傍聴に来ている1年生が、先日の探究の時
間で部活動のクラブ化に向けて夕張の教育を変える
という、そういう考えで発表されていました。それ
で、部活で市外に行く生徒を夕張高校に進学して
もらうためには、部活の地域移行の検討も高校だけ
ではなく中学校も含め、また生徒からの意見も聞いて、
市全体で検討されることをお願いいたします。

次に、北海道教育委員会は、毎年、高校の配置計
画案を作成するに当たり、地域別検討協議会を開催
しています。

そこで、この検討協議会に市長も参加されてい
ると行政報告されています。この地域別検討協議会
に出席し、高校配置計画案に対して、市長はどのよ
うな意見を述べてきたのかお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答え
いたします。

直近では、ただいまご案内のありました地域別検
討協議会でございますけれども、令和7年7月23日
に開催されておりまして、夕張高校をはじめとした
関係者の皆様の取組の結果、夕張高校が再編整備の
留保から留保解除となった状況下にありますが、
空知の学区全体を見ましても中学校の卒業生が
減少傾向にあるということから、引き続き公立高校
の配置に関しましては、進学先の候補となる高校が
募集停止になるなど、中学生の進路に対する不安を
抱かせるようなことがないようにということで、慎
重な議論が必要であるということを改めてお伝えさ
せていただいたところでございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
千葉議員。

●千葉 勝君 7月23日の会議に出席して、市長
は中学生の進路に不安を抱かせないように慎重な議
論が必要であるとの意見をされたとの答弁だったと
思います。

北海道教育委員会は、現在、在籍者数や再編整備
や募集停止、閉校の方針をするのではなく、地域の
高校を存続させるために努力している各自治体への
支援、学級定員改善による少人数でも運営できる学
校形態の確立など、地域の高校存続に向けて、あら
ゆる手だてを講じるべきと考えます。

そこで、今後、地域別検討協議会に出席され、発
言の機会があれば、このような観点も含めて意見反
映されることをお願いいたします。

続いて、3点目の夕張高校でしか学べない魅力あ
るカリキュラムづくりについてお伺いいたします。

地方版総合戦略で、夕張高校魅力化プロジェクト
の推進で、高校生は地域活性化の重要なプレーヤー
であり、夕張の未来を担う人材であることから、夕
張ならではの特色ある学びを通じて、人材を育成す
る取組を推進するとなっております。

そこで、夕張高校でしか学べない魅力あるカリキ
ュラムづくりを進めてきたと考えるが、進捗状況に

ついてお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の夕張高校の魅力あるカリキュラムに関するご質問にお答えいたします。

夕張高校の魅力あるカリキュラムにつきましては、総合的な探究の時間を核とした取組を推進しております。各学年ごとに夕張をテーマとし、1年生では歴史や文化、まちづくり等に精通する地域の方より講話をいただくことで夕張について知り、2年生では夕張の地域課題の解決に向けた企画の検討を行い、3年生では検討した企画を実践しております。

充実した探究活動となりますよう、高校魅力化コーディネーターによる授業の全般的な支援や、探究テーマに応じた専門知識を有する市職員や地域の方が高校生の検討グループに入りまして、適切な助言や、ともに企画の実践を行うなど、地域が一丸となって夕張高校の教育活動を支援しております。

今後も高校生の探究活動がより有意義な内容となりますよう、引き続き夕張高校と連携しながら、魅力を高めていく取組を進めて参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 夕張高校の学校教育の指針のスクールミッションで、地域の高校として地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来をつくっていく生徒を育成していくとなっておりますけれども、そこで地域の教育資源を活用して、夕張高校では具体的にどのような教育活動を行っているのかお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

夕張高校では、地域の教育資源を活用した教育活動といたしまして、先ほどご説明申し上げました総合的な探究の時間による取組に加えて、地域の地場産品を用いた商品開発を行っております。

この授業は、就職・専門学校進学コースの生徒さ

んが取り組んでおりまして、令和6年度は夕張メロンと夕張産長芋を活用した「めろんくれーぷ」を開発し、第12回高校生チャレンジグルメコンテストでISHIYAグループ賞を受賞しております。石屋製菓株式会社で製品化され、この商品につきましては数量限定で販売もされたところでございます。

また本年度でございますけれども、北海道経済連合会主催の北海道米のスイーツコンテスト2025で、夕張産のお米を活用し開発をした「もちっとこめどら」が大賞を受賞する、このような形で着実な成果を残しているとともに、高校生の大きな自信につながっていると考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 地域の教育資源を活用した取組として、総合的な探究の時間での取組のほか、地域の地場産品での商品開発を行って成果を残しているというような答弁だったかと思っておりますけれども、夕張にはメロン、長芋のほかにも、スキー場や夕張岳、シューパロ湖等の教育資源がありますけれども、これらを活用した教育活動を夕張高校として行っているのか、どのような取組を行っているのかについてお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

ただいまご質問いただいた中で、私が認識しているところでは、夕張岳、それからシューパロ湖を活用した取組というのは、今のところ行っていないという認識でございますが、現在、夕張高校では商品開発と流通の授業におきまして、夕張市農業協同組合にご協力をいただき、夕張メロン育成作業体験を実施しております。

この授業で育てたメロンにつきましては、高校生が実際に取り組んでいる商品開発や青果鮮度保持に効果のあるプラチナ触媒を用いた夕張メロンの鮮度保持に関する実験に活用されております。

なお直近の校長先生のインスタグラムを拝見しま

すと、このプラチナ触媒による鮮度保持、非常にいい効果が出ているようにお見受けしたところでございます。

また、スキー学習でございますが、地元夕張スキー連盟からの講師派遣をいただき、指導を受け、2年時には検定にチャレンジすると、夕張ならではの特色ある取組を実施しております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
千葉議員。

●千葉 勝君 ぜひとも夕張岳やシューパロ湖等の教育資源も今後利用して、教育活動を行っていただきたいということを夕張高校とご協議いただければと思いますので、よろしくお伺いいたします。

続きまして、4点目の夕張高校魅力化プロジェクト事業の検証についてお伺いいたします。

夕張高校は生徒数が減少し、廃校の危機にあったことから、夕張高校、PTA、行政が連携し、高校魅力化事業プロジェクトに着手し、この間、取り組んできました。

北海道教育委員会は、10月2日に令和8年度から10年度までの公立高等学校配置計画を決定いたしました。この計画の中で、令和10年度の高校配置計画において、上川管内の美瑛高校の中卒者数の状況、学校規模、募集定員に対する欠員の状況や地元進学率などを勘案して、令和10年度から募集停止し、13年度に閉校する予定と発表しました。

美瑛高校は普通科科目に加え、地域と連携した探究学習やドローン操縦の国家資格取得を目指す選択授業も導入し、美瑛町は入学準備金や通学費補助、給付型奨学金など、美瑛高校の生徒を応援するための様々なサポートを行ってきましたが、23年度、24年度と1年生が2年連続で20人未満を下回り、25年度には17人とどまり、募集停止。そして、閉校する予定となっております。

現在、夕張市も高校魅力化事業を実施し、その検証を行い、地元からの生徒確保を努めていますが、目標の70%には達成していません。

生徒が行きたい学校、保護者が行かせたい学校と

して夕張高校を選んでいただくためには、生徒、保護者が望む、特色ある学校でなければと考えます。

そこで、高校魅力化事業を検証するに当たり、夕張高校や保護者、生徒からも意見を聞き、検証されてきたのかについてお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の夕張高校魅力化プロジェクトの検証に関するご質問にお答えいたします。

直接的な検証の場ではございませんが、学校、保護者、PTA、地域の方、行政などで構成をしております学校運営協議会が年3回開催されております。また、本年度は総合計画並びに地方版総合戦略の策定に向けたアンケートを実施いたしまして、中学生、高校生、保護者の皆様方にご協力をいただき、回答をいただいております。

このアンケートにつきましては、現在集計中でございますが、これらを生かし、夕張高校存続のための魅力化事業を推進して参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
千葉議員。

●千葉 勝君 令和5年第2回定例会で、同僚議員の魅力ある高校づくりに向けて夕張高校への給食実施の質問で、市長は他の市町村の取組状況、衛生面での関係法の解消策、北海道教育委員会の見解、事業費などについて情報収集をするとともに、市民の皆様のご意見をお聞きしながら、夕張市としてどのような取組が可能か研究して参りますとの答弁だったかと思っております。

そこで、高校への給食実施の研究の進捗状況をお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

一般的には学校給食法が高校を対象としておりませんが、希望者へ有料で提供するなど、様々な形態で給食の提供を実施している学校もございます。

夕張高校での実施に当たりましては、費用面に加えまして調理場の確保や食中毒対策、安全に運搬する方法といった実施方法等の課題も考えられるところでございます。

財政的資源でありますとか人的資源に限りがある中、夕張高校魅力化事業において実施すべきかどうかも含め、優先順位をつけながら研究をして参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 財政や人的資源に限りがあるので、夕張高校魅力化事業で行うかどうかも含めて、優先順位をつけながら研究していくとの答弁でしたけれども、ぜひ市長の任期中に結論が得られるよう、ご要望しておきます。

次に、夕張市は小中高一貫した英語教育の取組として、小学校3年生から高校3年生までの10年間、マンツーマンオンライン英会話の学習を行っています。このマンツーマンオンライン英会話などで学んだ英語やコミュニケーション能力を生かす実践の場として海外短期留学を実施していますが、派遣人数は2年生5名の限定となっております。

夕張高校は1クラス20人に満たない規模ですから、5名の限定した生徒ではなく、例えば1クラス全員が修学旅行で海外に行けるといった取組もすべきではないかと令和5年第3回定例会での質問で、市長は修学旅行の行き先については高校の判断によるものなので、市といたしましては、生徒のほか、高校も含めた様々なご意見をお聞きしながら、今後も夕張高校魅力化事業として限られた予算の中で、生徒にとってよりよい形となるよう、事業の改善に取り組んで参りますとの答弁だったかと思えます。

そこで、その後、意見を聞いて、事業の改善に向けた取組状況についてお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

本年度は、2年生5名を海外短期留学に送り出す

ことができたところでございます。

過去の答弁の繰り返しとなりますけれども、修学旅行の行き先につきましては、高校さんの判断によるものでございます。

市といたしましては、今回、海外短期留学派遣事業に参加した生徒さんのほか、高校を含めた関係者の様々なご意見をお聞きしながら、今後も夕張高校魅力化事業として、限られた予算の中で生徒にとってよりよい形となるよう、事業の改善に取り組んで参りますが、現時点ではこの5名の枠を維持して参りたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 今後とも5名でやっていきたいという答弁だったかと思えますけれども、できましたら5名よりももう少し増やすような感じでご検討を願えればと思えますので、よろしくお伺いいたします。

最後に、5点目の地域みらい留学での全国募集についてお伺いいたします。

令和6年度から地域みらい留学に参加して、全国から生徒募集を実施し、6年度に1名、7年度に4名の生徒が入学しました。全国に地域みらい留学に参加している高校が多数ある中で、5名の生徒が夕張高校を選ばれた理由について、もし市長、知っているのであればお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の地域みらい留学で夕張高校が選ばれた理由に関するご質問にお答えをいたします。

地元の中学生はもちろんのことでございますが、他地域から夕張高校を選んで入学されたということに対しましては、本当にうれしく思っております。

生徒の皆様には様々な理由によって夕張高校に進学されたことと思えますけれども、お聞きしている範囲では、オープンキャンパスに参加して興味を持ったから。また、地元とは全然違う雰囲気の中で、地域に何かをすることができそうでよい経験になり

そうだと思うから。また、学校見学会で会った先輩の話を聞いて、自分も先輩のようになりたいと思ったから、こうしたことが理由として述べられていると伺っております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 現在、夕張高校は、道外からの推薦枠は10%、4名と認識しています。令和6年度は1名、7年度は3名全員が合格し、入学されております。

その推薦枠10%、4名以上の出願があった場合は、不合格者が出るのではないかと私は考えます。せっかく夕張を選んでいただいた、受験していただいたのに、不合格になられるのではないかと考えると、枠の拡大ができないのかと私は考えますが、そこで夕張高校の道外からの受入れ枠、10%、4名の受入れ枠拡大の考えについて、市長にお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

まず受入れ生徒数を10%、4名としている理由でございますけれども、これは地元中学生を全員受け入れる体制を確保した上で、定員に達しない人員として設定しております。

受入れに当たりまして体制整備も必要となりますけれども、今後の児童生徒の推移を見ながら、夕張高校とも連携しながら検討して参りたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 地元中学生を全員受け入れる体制を確保した上で、定員に達しない人数を設定しているとの答弁だったかと思いますが、今後、今の小中学生の人数を考えると20名を切る地元の生徒数かなと考えますので、今後とも、先ほど検討して参りますという答弁だったかと思いますが、10%、4名の拡大の検討をぜひともお願いしたいと思っておりますので、よろしくお伺いいたします。

次に、道外から入学した生徒が5名ほどおりますが、夕張高校の魅力を発信することで、今後とも生徒の受入れにつながるのではないかと考えますので、そこで、この5名の生徒が何か情報発信等を行っているのかについてお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

道外から実際に入学した生徒さんが、夕張高校への入学を希望する中学生に直接魅力を伝えるということは、大変効果的であると分析しております。

夕張高校独自の取組として有志の生徒さんで組織をされたやまびこアンテナには道外から入学した生徒全員が在籍しており、地元から進学した生徒とともに、夕張高校の魅力を発信する活動を行っております。

実際に地域みらい留学が主催するオンライン合同説明会や首都圏等で実施をされる対面の合同説明会、全国生徒向けのオープンスクールにおいて進学を希望する中学生に対して説明を行うなど、より効果の高い広報活動を実施しております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 入学された5名の生徒には夕張高校のやまびこアンテナを利用して魅力を発信しているということですので、今後ともぜひ続けていっていただきたいと思っておりますので、よろしくお伺いいたします。

最後に、11月25日に傍聴に来ています夕張高校1年生の公共総合的な探究の時間の授業を議員全員で参観し、意見交換を行って参りました。

意見交換の中で、医療費の無償化を高校生まで実施すれば、移住定住につながるのご意見をいただきました。子育て世代へのサポートは、将来の夕張のための投資であり、移住定住にもつながると私も考えます。

これから令和8年度予算編成に着手すると考えますが、高校生までの医療費無償化の実施を検討され

ることを要望して質問を終わります。

●議長 大山修二君 以上で、千葉議員の質問を終わります。

次に、高間議員の質問を許します。

高間議員。

●高間澄子君（登壇） 高間澄子でございます。
通告に従い、住み続けられるための夕張の将来像についての2点、一般質問を行います。

財政再建20年の取組も令和9年3月と目に見えるところ、手に届くところまで参りました。あれから19年が経ち、人口は6,000人を割り、減少率は管内トップと言われております。

しかし、夕張で生まれ育った私たちにとって、不便でも住み続けたいのが本当の気持ちであります。一人暮らしの高齢者が増えていることもありますが、過疎であっても住民が安心して住み続けられるような施策の検討をしていただけるよう、多くの市民が願っているところであります。

今後も人口の減少が進むであろう本市にとって、市民が安心して住み続けられるための将来像を市長はどのように考えているのか、次の点についてお伺いをいたします。

今年度は、総合計画、総合戦略の素案作成に向けて施策の検討を行うと市政懇談会でも説明されておりましたが、市長は人口減少の本市でどのような施策に重点を置いて素案を作成する考えなのか、この点についてお伺いをいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 ただいまの高間議員の総合計画、総合戦略の素案作成に当たった重点施策に関するご質問にお答えいたします。

私の2期目の所信表明におきまして、まちづくり、産業、教育、福祉などを包含した総合的な計画を策定し、新しい市の指針にしたいと述べたところでございます。

これを実施すべく、本年度を初年度として2か年かけて総合計画を策定することについて、本年度の市政執行方針でお示しをしたところでございまして、

本年5月に計画策定を支援する業者と契約をし、総合計画の作成に着手したところであります。

本年度は計画策定に当たって市民の皆様からの現状の声を把握すべく、本年9月から約1か月かけまして無作為抽出による市民向けアンケート、それから中学生と高校生向けのアンケートをそれぞれ実施したところでございます。

これから、このアンケート結果を分析した上で、今後のまちづくりのために市民の皆様が今感じている課題は何であるか、その解決のためにどのような施策が必要となるのかについて、庁内で検討をして参ります。

一方、これまで本市は財政再建を最優先事項として行財政運営に取り組んで参りましたが、それであるがゆえに、手がつけられなかった課題というものも山積している状況であると認識しておりまして、これらを懸案事項として整理しております。

今回の総合計画策定の過程において、これら懸案事項の解決の方向性を出していくことも重要であると考えております。

したがいまして、アンケート結果を踏まえた施策と懸案事項の解決に向けた施策について、具体的な施策としてどのように計画の中に盛り込んで行くか、どのような施策に力を入れていくかということにつきましては、本年度中に庁内で十分検討を進めて参ります。

その上で、令和8年度に設置を予定しております検討委員会においてご議論いただけるよう、適時、議員の皆様にも情報共有させていただきながら、本年度末までに素案の形に取りまとめたいと考えております。

議員からもお話がございました再生振替特例債の償還後に、新たな段階を迎えることになる夕張市において、小さくても強く輝く安心と希望のまち夕張、この姿を市民の皆様にお示しできるよう、しっかり取り組んで参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
高間議員。

●高間澄子君 今の市長の答弁の中には、アンケートをまず実施されて、今まさにアンケートの分析を行っているところと、こういうふうにお伺いをいたしました。

このアンケートの結果を踏まえての施策と、また懸案事項の解決に向けた検討を進めていくという、こういう答弁だったかと思うのですが、今の市長の答弁では、市民からのアンケートを重視して、さらにまた今回は中学生、高校生といったところに向けているのが、市長が平日頃おっしゃっております主権者教育に取り組んでいる市長の思いを感じることができます。

どのような分析結果が得られるのか、私も期待をしているところでありますが、まだ出来上がっていないので、結果を聞くことはできませんが、私自身もこのような主権者教育に取り組んで、中学生、高校生にもアンケートを出したということには、すごく今までにはなかった成果なのかなとこんなふうにも思っております。

その私自身の期待もあるのですが、市長はこういう若い子どもたちのアンケート結果をどのように待たれているのかなという、気持ちの上で結構なのですが、お伺いをいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の再質問にお答えいたします。

アンケートの結果について、私としてどういうところに期待をしていくかということだと思うのですが、まず1つは、議員のほうからも先ほどお話がありました1960年には人口が約11万7,000人おったところが、今人口が6,000人を切っていると。ピーク時と比べると、もう今の人口というのは5%ぐらいという状況でございます。

そうした状況の中ではありますが、この地域でなりわいを行っている市民の方もいらっしゃいますし、またお話がありましたように、やはり生まれ育った地域に住み続けたいという方もいらっしゃるわけでございます。いろいろ課題はありますし、ご不便

をおかけしているところもあると思うのですが、この町をどうやって未来につないでいくかというところが一番重要だと思います。

そうしたことから、やはり今の中学生、高校生がこの夕張に対してどのようなことをお考えなのかということ長い目線で見ながら、どういった施策を展開していく必要があるかという判断材料にして参りたいと、そのように考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

高間議員。

●高間澄子君 ありがとうございます。ごめんなさいね、架空のことを聞くのはなかなか答弁もしづらと思いますけれども。

次に、昨年、令和6年の4月号の広報ゆうばりから、最後のページに掲載されています市長コラムというのが始まりました。行政の課題とか、また解決のための市民への協力依頼、そして市の方向性と分かりやすい言葉で載せていただいております。

本年の3月号では、進むべき道・総合計画その1、続けて4月号では、持続可能なまちの絵を描く・総合計画その2、さらに12月号においては、持続可能なまちになるためのコンパクトシティと、そういうふうにお題がありました。

その中では、少子高齢化が進む夕張市でこれまで取り組んできたコンパクトシティをさらに推進し、住み慣れた夕張で安心して暮らし続けていただく、子どもたちが暮らしたいと思うまちにすることを目指し、具体化していく、こういうふうに載っておりました。

私なりに、市長の総合計画に対する1つのキーワードなのかなと、こんなふうに推測いたしているところでございます。

私の推測でございますけれども、市長はこのようなコラムを載せられるという点で、どのような思いで話されたことなのかなという、この点をちょっとお聞きしたいなと思っております。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の再質問にお答え

いたします。

まずは、足らざるところの多い文章だとは思いますが、市長コラムをお読みいただいているということで感謝を申し上げたいと思います。

その上で、これまで総合計画でありますとか、12月号ではコンパクトシティということに改めて触れさせていただいているということでございますが、その思いというのは、やはり先ほど夕張の人口の話をしましたけれども、もう一つ夕張の大きい課題というのは、広い行政面積にやはり住民の皆さんがまだ分散して居住をしているという状況だというふうに思います。

それで夕張に限らず、今、北海道内の市町村長さんともお話をすることがあるのですけれども、やはり、例えば令和8年度予算を組むにしても、これは非常に厳しいなということを皆さんおっしゃられています。

そういったことも考えますと、やはり市民の皆さんのご不便を極力減らして、そして市も限られたお金を有効に使う。そうしたことでまちを運営していくということを考えれば、やはりコンパクトシティというのをこれまでどおり、これからも進めていくということが非常に大事だというふうに思っております。

そうした中では、やはり市民の方々の中には、住み続けたい地域がどんどん人口が減っていく一方というところがありますけれども、そうしたところにこれまでどおりいろいろ施設を用意したりだとか、施策を打ったりだとかということが、将来的になかなかやはり難しくなってくるところもあるというふうに受け止めておりますので、その意味ではやはりコンパクトシティを推進していくことが持続可能なまちづくりの柱になっていく。そのことを市民の皆さんに何とかご理解をいただきたいという思いで書いております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

高間議員。

●高間澄子君 この点についての再質問ではありませんか。

ありませんけれども、2026年、明年ですね、明年の3月には新たな人口ビジョンと合わせて、総合計画の素案をまとめるということでありまして。市長の思いであります。

どうか、この総合計画も実効性のある、市民の希望も取り入れるような総合計画の策定をぜひともお願いをして、この点については質問を終わります。

次にいきたいと思いますが、よろしいですか。

●議長 大山修二君 どうぞ。

●高間澄子君 2点目が、公共交通は住み続けるための重要施策であると認識しており、公共交通を持続可能とするためには運行体制の維持と、そして継続性を考える必要があると思うが、この点について、市長は体制を維持継続させるために何が必要と考えられているかお聞きをいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の公共交通を維持、持続させるために必要なものに関するご質問にお答えさせていただきます。

民間のバス事業者におきましても、本当に今いわゆる政令市と言われる札幌の中でさえ、運転手不足を理由に路線の廃止ですとか減便、こうしたことが相次いでいる状況でございます。そうしたことから、やはり公共交通を維持するためには、運転手をはじめとする人材を確保するということが必要であると考えております。

夕張市といたしましては、南空知定住自立圏の取組の一つとして、公共交通の維持確保を図ることを目的とした路線バス運転手確保支援金制度を実施しております。

こちらは、南空知に住んでいる方が新たに南空知を営業区域としている路線バス事業者の運転手として就職する場合、支援金を支給するというものでございます。

引き続き、課題を共有する関係市町とも情報共有を行いながら、公共交通の維持に向けた取組を進めて参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

高間議員。

●高間澄子君 今、全国的にもそうでありますけれども、この人口減少の社会の中にありまして、行政サービスの維持に向けた新たな取組として、総合振興局によります広域連携組織が注目を集め始めていると、こんなふう感じております。

例えば、導入コスト削減が見込める事務システムの共同調達とか、また条例改正作成の効率化等、具体的に各自自治体が動き始めていると、こんなふうにも聞いております。

ましてや、今市長が言われましたように、他市町村をまたぐ公共交通であれば、なおさらに近隣市町村との協力関係が必要であると思います。南空知定住自立圏の強化と、また公共交通の維持に向けての取組を進めていかなければならないとこんなふうにも強く感じております。

今後、この南空知定住自立圏というこの働きが、私たち夕張にとってどのようなメリットが考えられるのかお伺いをしたいと思います。

●議長 大山修二君 答弁調整のため暫時、休憩いたします。

午前11時33分 休憩

午前11時34分 再開

●議長 大山修二君 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 答弁調整にお時間をいただきまして申し訳ございません。

ただいま高間議員から再質問がございました定住自立圏の評価ということでございますけれども、この定住自立圏の協定締結がこの春ということで、いわゆる歩み出したばかりでございまして、現在いろいろな課題の洗い出しをしているというところでございます。

ですので、現段階で評価には至らないところでございますけれども、一つ申し上げたいのは、この定

住自立圏を設立するに際して、いわゆる南空知圏域の人口動態についてもお示しをされております。

その内容というのは、現在の南空知圏域の人口と比べて2050年には5万人が減っていくということでございまして、こうしたことを考えますと、やはりこれからも広域で取り組むための協議を継続的に続けていくということに関しては、非常に意義のあるものであると感じております。

●議長 大山修二君 再質問ありますか。

高間議員。

●高間澄子君 まだまだ出発の段階でありまして、これからまたいろいろ検討がなされていくということだと思いますので、私たちも大いに期待をしたいなと思っております。

次に、夕張には JR 新夕張駅がございます。誰もが承知のことではありますが、市内線の夕鉄バスを利用して、新夕張駅から札幌駅へと乗り継ぐことができるわけでありまして。夕張市民の特典として1,680円の特急券の免除があります。これは、とても大きなことだと思っております。

市内の移動は夕鉄バスに乗って市内を移動する、新夕張まで行くとしても敬老パスで100円支払えば、新夕張まで行くことができます。この新夕張から札幌駅に行くことができるのですけれども、この電車賃というのが2,020円かかるのですね。

夕張にとってたった一つの残った JR 駅が札幌・帯広間のこの乗客が少ないと、いずれは止まらなくなってしまうのではないかなという、そういう不安も抱いているところであります。要するに、通過点になってしまわないように、利用者の促進を私たち一市民としても願うところであります。

このJRと夕鉄バスの乗り継ぎ時刻表もできております。その時刻表、ホームページから出ますよということで担当課から聞いたのですけれども、直接出ないで、やはり JR 北海道、そこにつながらないとこの時刻表も出てこない状況なのです。

だから、年配者にはとても難しい、できない作業であるので、ぜひこの時刻表も人通りのあるところ

に置かせていただくとか、市民の目に届く、そういう努力も必要ではないかなというふうに思うわけですね。

これが札幌から新夕張駅、そして新夕張から夕鉄で夕張市内を行き来できるとなると、やはり夕張への交流人口にもこれはきっと役立つしていくのではないかなという、そういう思いを私は持っています。

それで、もう少しPRですか、そういうものをやはりJRと夕鉄という乗り継ぎなのですが、市としてもこの便利さをもう少しPRしていったらいいのかなというふうに思うのですけれども、市長の考えは、この点はどんなふうにお考えでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 ただいまの高間議員の再質問にお答えいたします。

JR石勝線のいわゆる特急停車駅があるということでの利用促進ということだと思いますが、全く私も思いとしては一緒なのでございます。

それで、一つご紹介させていただきますと、JR北海道の綿貫社長とお会いする機会、少なくとも年1回はあるのですけれども、そのときに常々申し上げていますのは、JR北海道のほうでは中期経営計画というものを立てておまして。

その中では、現在、新千歳空港駅というのはいわゆる突き当たりの駅で、我々が特急を使って札幌へ行く場合というのは、南千歳で乗り換えるとか普通列車に乗り換えるとか、そういった必要があるのですけれども、その中期経営計画の中に書かれている新千歳空港のスルー化というものについては、突き当たりではなくて、札幌から南千歳を通過して、新千歳空港駅を通過して、追分まで来るといった将来的な構想なのですね。

具体的に今、事業実施時期というのは決まっていないということではあるのですけれども、やはりそういうことがあれば新夕張駅の利便性というのは格段に向上するわけなのでございまして、そうした中期経営計画に掲載されている事業の実施について、まず強く要望しているということについてはお伝え

をさせていただきます。

その上で利用促進ということ、市民に乗り継ぎも含めて利便性だとか、あるいは先ほどお話をいただきました特急代用証があれば、普通運賃で乗車できるということも含めて、これまでの市の広報の中で不足しているものがないかというものについて、いま一度ちょっと検証をさせていただき、今後の対応を考えさせていただきたいと思います。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

高間議員。

●高間澄子君 ぜひ、我々市民も協力した上で、新夕張駅がしっかりと夕張の中に残っていく、そういう政策の努力をお願いしたいと思います。

あと、もう一点なのですが、市外線デマンドバスが今年の4月から4往復でJRの北広島駅まで延伸をしていただきました。経費といたしましても4,400万円という大きな金額でございます。これを一般財源から盛り込んでいただいたところであります。

利用者からの反応は、とてもよい感想をいただいております。これは、もう市の窓口の方たちもそういう感想を聞いているかとは思いますが、人間というのはこれでいいとは収まらなくて、要望としてはさらに高まりまして直接札幌行きの検討をしてほしいと、こんな声も便利になればなるほど大きくなって参っております。

今、JRを使って札幌までという話も市長から答弁いただいております。こういう市民の声を市長はどのように受け止めてくれているのかなど。私なりにはちょっといろいろありますけれども、市長の思いを最後に聞かせていただきたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 JR北広島駅まで4月にデマンドを延伸したということについて、ご評価もいただいているということで、そこは本当にうれしく思うところでございます。

それで市民の方の中には、私は直接伺ったことはありませんけれども、議員のほうからお話がありましたように札幌まで、いわゆる乗換えをしないでと

ということなのだというふうに思います。

それで申し上げたいのは、やはり公共交通を維持していくためには先ほど運転手ということで、その個別の課題について触れたところでございますが、やはり何より事業者さんが安定して事業を継続できるということも大事だというふうに思います。

それから、やはり運行しても利用者が少ないということであれば、経費の負担だけがどんどん嵩んでいくということでもありますから、やはりその両者、一定の利用者についても確保していくということが必要になってくると思います。

その上で、ご要望としてはあるということではあります。現在の体制、それから事業を継続していくという観点で考えますと、今、市としては、やはりJR北広島駅でお乗り継ぎをいただくというのが、時間的にも金銭的負担的にも、乗換えということはどうしても出てしまいますけれども、効率的に移動をしていただける環境づくりに努めたという評価をしているところでございますので、そうした市民の方々のいろいろご要望、これからも出てくると思いますが、受け止めながら、こちらの考えもお伝えするというのを欠かさず努めていきたいというふうに考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありますか。

高間議員。

●高間澄子君 再質問ではございませんけれども、今までお話をいただいた南空知定住自立圏という、これがどのように発展していくかはまだまだ未知数なところだと思いますけれども、私たち公共交通の厳しい地域にあっては、この南空知定住自立圏というのが、いい方に発展していけるように、また関係者、皆さんで話の中で培っていただきたいと思いますという要望で、一般質問を終わらせていただきます。

●議長 大山修二君 以上で、高間議員の質問を終わります。

申し上げます。

ここで、午前の会議を終わり、午後1時まで昼食休憩といたします。

午前11時47分 休憩

午後1時00分 再開

●議長 大山修二君 休憩前に引き続き、会議を開きます。

それでは、徳谷議員の質問を許します。

徳谷議員。

●徳谷康憲君（登壇） 徳谷康憲です。

通告に従いまして、夕張市の鳥獣対策について質問いたします。

日本全国でクマの出没が近年深刻化しております。福島町で2025年7月に新聞配達員がヒグマに襲われ、羅臼岳では8月に男性が登山中にヒグマに襲われ命を落としました。お亡くなりになられた被害者の方に謹んで哀悼の意を表します。

夕張市では人的被害はないものの、連日ヒグマの出没情報が出ており、市民から不安の声が上がっています。

国は、各地で深刻化するクマによる被害対策として、駆除に関する地方自治体への財政支援を拡充する考えを表明し、国民の安全・安心を脅かす深刻な事態だ。補正予算も活用し、必要な施策を順次実行に移すと述べました。

以上を踏まえ、3点、市長にお伺いいたします。

まず1点目、ヒグマが市街地に出没したときの市の対応をお伺いします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 徳谷議員のヒグマが市街地に出没したときの市の対応に関するご質問にお答えいたします。

クマ対策は全国的な課題となっており、周辺を森林に囲まれ、クマが広範囲で出没する環境下にある夕張市においても、クマ対策を円滑に推進し、農作物の被害や人的被害を防止するため、夕張市のほか、猟友会、農協、警察、学校などの関係機関及び関係省庁と相互に協力し、対策に当たっているところでございます。

クマ出没時の対応でございますが、クマ駆除実施の主力を担っていただいております猟友会とは、常に情報共有を図りながら対策を進めているところでございまして、市街地に限らずクマの目撃情報や足跡、ふんなどの情報がもたらされた場合には、猟友会と連携し、状況確認、痕跡確認を行っていただき、状況に応じて注意喚起の看板設置や箱わなの設置を行っております。

猟友会の方々には、クマ出没時の出動のほか、効果的な箱わな設置場所の選定、箱わなを仕掛けた場合の見回りなども含め、土日問わずご対応をいただいているところでございます。

このほかの対応といたしましては、クマの目撃情報などの発信について、これまでも地デジ広報や市ホームページに掲載するなど、注意喚起を図ってきたところでございますが、この秋から防災速報アプリケーション、いわゆる防災アプリをダウンロードしていただければ、個人のスマートフォンに直接通知をするという形の情報発信を新たに開始しております。

なお、このスマートフォンへの情報発信についても職員が土日問わず対応をしているところでございますので、申し添えたいと思います。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
徳谷議員。

●徳谷康憲君 市の行っていることは分かりました。

再質問なのですが、夕張市は緊急銃猟については、警職法に基づく捕獲のみで対応する。理由として、発砲までの手順を定めたマニュアルづくりや人員確保など体制が整っていないと、北海道新聞のアンケートに答えられていたと記憶しております。

今後、市街地にヒグマが出没したことを考え、相応の体制づくりを進めていかななくてはならないと思いますが、市の考えをお伺いします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。
●市長 厚谷 司君 徳谷議員の再質問にお答えいたします。

市街地における銃器を使用した鳥獣の捕獲につきましては、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律、いわゆる鳥獣保護管理法でございまして、こちらによりこれまで禁じられておりましたが、同法の改正法が本年4月に公布、この改正法の施行に伴いまして本年9月1日からは、人の日常生活圏に侵入したクマを市町村の判断で銃器捕獲することが可能となっております。

ただいまご指摘のありました報道によるところのということで本市の対応ですが、現時点では緊急銃猟による捕獲を実施するということは困難と、そのように判断をしております。

理由につきまして申し上げますが、緊急銃猟の実施主体は市町村でございまして、まず発砲の判断、それから通行制限の指示でありますとか委託、安全確保、それから記録、損失補償など、市町村が広範な責務を負うこととなりますが、これら、発砲までの手順を定めたマニュアルの作成や人員確保など、緊急銃猟実施のための体制が整っておりません。加えて、発砲の判断をすることができる専門的な知識や経験を持った職員もおりません。

緊急銃猟の実施におきましては、発砲時の住民の安全確保が最優先でございまして、今申し上げましたとおり安全を確保し、リスクを排除することが難しく、したがって市街地での銃猟による捕獲につきましては、現時点においては警察官職務執行法に基づく捕獲に頼らざるを得ない状況でございます。

緊急銃猟を実施することが困難な状況である理由につきましては今申し上げたとおりですが、一方、市町村による緊急銃猟が可能になりましてからこれまでの間、実際に緊急銃猟によるクマの捕獲を実施された市町村の事例も出てきておりますので、まずはそれらの事例について情報収集に努めて参りたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
徳谷議員。
●徳谷康憲君 緊急銃猟については前向きに進め

ていただきたいと思ひます。

続いて、2点目にいきたく思ひます。

猟友会など関係機関の連携についてお聞きします。

狩猟免許を持つ人を自治体が雇うガバメントハンター。ガバメントハンターとは、狩猟免許を持ち、自治体の職員として野生鳥獣対策を行う専門職のことです。近年、クマなど出没が増加していることを受け、被害対策を迅速かつ専門的に行うために注目されています。

彼らの存在により、通報から駆除までの一連の流れがスムーズになり、専門的な知識と技術に基づいた対応が可能になります。夕張市のガバメントハンター導入についてのお考えをお伺ひします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 徳谷議員の関係機関との連携におけるガバメントハンターの設置に関するご質問にお答えいたします。

議員ご指摘のガバメントハンターの設置でございますが、自治体が狩猟免許を持つ駆除専門の職員、いわゆるガバメントハンターを配置することであると認識しておりますが、本市においては、現在のところ、駆除専門職の配置は検討しておりません。

クマ出没時の対応につきましては、これまで同様、猟友会等と連携を図りながら対処をして参りたいと考えております。

一方、自治体による緊急銃猟が可能となって以降も、警察官のライフル銃による駆除を可能とする運用が開始されたほか、政府のクマ被害対策等に関する関係閣僚会議におきまして、銃器取扱い経験のある自衛隊、警察OB等に対しての狩猟免許取得への協力要請、自治体がガバメントハンターを確保するための人件費支援制度の創設などが盛り込まれたクマ被害対策パッケージが策定されております。

本市でも取り入れることが可能な施策はないかなど、制度改正や発出される施策等を注視して参りたいと考えております。

なお、狩猟免許制度につきましては、愛好家が趣味で狩猟を楽しむことを想定し、銃や箱わなを安全

かつ適法に扱えるよう導入された制度ということでございますので、獣害対策ということで考えますと、必要な知識が問われるものではございません。

自治体における鳥獣捕獲の担い手確保につきましては、狩猟免許取得者を配置するだけで解決するものではなく課題も多いと、そのように受け止めております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
徳谷議員。

●徳谷康憲君 夕張市が現在策定中であります総合計画に、今言ったガバメントハンター導入を含めた鳥獣害防止総合対策事業を加えるべきと私は考えます。それについて、市の考えをお伺ひします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 徳谷議員の再質問にお答えいたします。

ただいまご質問いただきました件、今後策定を予定しているという総合計画でございますが、これは地方自治体の行政運営における最上位計画でございます。新たなまちづくりの方針として特定分野に限定をしない、まちづくり全体を対象とした計画でございます。

そのため、様々なご意見を踏まえながら策定するものでございますので、ご意見の一つとして承りたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
徳谷議員。

●徳谷康憲君 ぜひ前向きに検討のほうをよろしくお願ひします。

続きまして、3点目に移らせていただきます。

害獣を活用したふるさと納税やスタートアップ企業の誘致などの考えについてお伺ひします。

今年の10月14日に夕張高校体育館で行われた株式会社Fantによる「キセキの授業～地方での起業～」に見学参加させていただきました。狩猟界隈のDX化を目指し、ウェブプラットフォームFantを開発、運営。鳥獣被害に悩む農家、食材を求めるジビエ料理店とハンターをつなぐマッチングサービスを

メインに提供しているというものでした。

夕張市でもエゾシカを使ったペットフードや角の工芸品などをふるさと納税などで販売ができると考えました。害獣を活用したふるさと納税やスタートアップ企業の誘致などについて、夕張市の考えをお願いします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 徳谷議員の害獣を活用したふるさと納税やスタートアップ企業の誘致などの考えに関するご質問にお答えいたします。

害獣の活用にあたりましては、駆除や捕獲をした害獣を素早く処理できる設備が必要であると認識をしております。現状、市内にそのような設備を持つ施設がないため、活用は難しいものと考えております。

その上で、ふるさと納税の返礼品についてでございますが、事業者から返礼品化についてのお話があれば、本市で実施している返礼品開発支援補助金の活用などを踏まえ、協議、検討をさせていただきます。

また、スタートアップ企業の誘致については、夕張市チャレンジ事業として、夕張市創業等支援事業補助金がございます。現行制度におきましても、市内で新たに事業を始める方に対して、初期投資などの費用の一部をサポートするものでございます。

スタートアップ企業に対しては、先進的な取組やアイデアを生かし、新しいビジネスモデルの創出も期待をされますことから、引き続きこれらの仕組みを活用し、害獣の活用を含め、事業者の取組に対する支援を行って参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

徳谷議員。

●徳谷康憲君 現在、エゾシカやヒグマなど、有効利用されることなく廃棄されるという現実がありますので、ぜひとも有効に活用して、命を無駄にしないように進めていただきたいと思います。

再質問はありません。

現在、全国的に都市部へ出没するクマ、いわゆる

アーバンベアによる市民への被害が近年急増しております。各自治体では本格的な対策が求められております。

本市としても、市民に被害が及ばないように、動物と人間の境界になる雑草の草刈りを一層強化するとともに、猟友会をはじめとする関係機関と連携し、より一層の安全対策に取り組んでいただきますようお願い申し上げます、私の質問を終了させていただきます。

●議長 大山修二君 以上で、徳谷議員の質問を終わります。

次に、君島議員の質問を許します。

君島議員。

●君島孝夫君（登壇） 君島孝夫です。

通告に従い、一般質問を行います。

まず初めに、観光資源の利活用について質問いたします。

夕張には、地域の活力、魅力発信につながる多くの観光資源を有しており、石炭博物館やシューパロ湖などの湖面や景観の利活用など、地域振興に大きく寄与しているが、今後どのような地域資源活用を考えているのか、下記の4点について伺います。

まず一つ目、石炭博物館来館者について、11月3日で今期の通常営業を終了し、一日当たり最多となる1,300人を記録しており、本年度3万3,000人の来館者数があったと新聞に掲載されておりました。明るいニュースとして受け止めております。

そこで、石炭博物館模擬坑道復旧後の市内観光状況について、市長にお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の夕張市石炭博物館模擬坑道復旧後の市内観光状況に関するご質問ということでございまして、ご質問の内容からしますと、いわゆる入り込みということと受け止めて答弁をさせていただきます。

まず、模擬坑道復旧後の夕張市石炭博物館の入り込み客数でございますが、前年比、おかげさまで1.8倍という非常にたくさんの方にご来館をいただい

おります。

また、幸福の黄色いハンカチ思い出ひろばを含めた市内のほかの観光施設の入り込み状況でございますが、こちらは前年とほぼ同比という状況でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 今、市長のほうからほかの観光施設と言われましたが、それはどの辺の観光施設を言われているのか、ちょっとお聞きします。

●議長 大山修二君 答弁調整のため暫時、休憩いたします。

午後 1時19分 休憩

午後 1時19分 再開

●議長 大山修二君 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 答弁調整にお時間をいただきました。

君島議員の再質問にお答えいたします。

先ほど私のほうから幸福の黄色いハンカチ思い出ひろばを含めた市内のほかの観光施設というふうに表現したところでございますが、ほかといたしますのは道の駅夕張メロードでありますとか、滝の上公園、シューパロダム、シューパロ湖、夕張市農協銘産センターなどを含めて申し上げたものでございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 次の質問に入ります。

観光資源の洗い出しは、どのような資源を考えているのか、市長にお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の観光資源の洗い出しの考えに関するご質問にお答えいたします。

観光資源と申し上げましても、施設、場所、食など様々な観点からの支援がございまして、こうした

資源の洗い出しについては、既に事業を行っていない施設の再活用でありますとか、市が大きな財源負担を伴う事業の実施、こうしたものは現段階では難しいと考えております。

しかしながら、今ある資源を有効に活用する、あるいは新たな視点から価値を見いだしていくといったことは、洗い出しを実施していく上で大切だと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 炭鉱遺産である坑口を以前、市長が答弁されましたが、点と線をつなげるなどの活用をできないでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の再質問にお答えいたします。

坑口も広い意味での炭鉱の遺産であるというふうに考えますが、坑口などにつきましては安全管理の対策など課題もありますほか、観光資源とするために一定の費用が必要となることが見込まれることから、事業の継続性も踏まえ、そこは慎重に対応して参りたいと考えてございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 次の質問に入ります。

シューパロ湖やほかのダムの活用についてお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 ただいまの君島議員のシューパロ湖やほかのダムの活用ということでございまして、観光資源としての活用をいかがかというご質問というふうに受け止めさせていただきます。

その上で、シューパロ湖の活用に関しましては、雄大なダム湖を見に訪れる観光客ほか、ボートでありますとか水上バイクなどのアクティビティを楽しむ方が活用をされてございます。

また本年は、残念ながらクマの影響で実施できませんでしたが、ダム湖の水位が下がる9月に

シューパロダム建設によって湖の下に沈んでいる旧鹿島地区の一部区域を散策できる、沈んだ街あるきというイベントが実施されており、旧住民の方も含め、全国から多くの方々が来訪をされています。市といたしましては、こういった観光を通じ、シューパロ湖をPRし、観光客の誘致に努めて参ります。

また、ご質問のありましたほかのダムに関しましては、本来のダムの事業目的のみの状況となっております。具体的に申し上げますと、施設の管理上、立ち入ることができない、そうしたものもございます。

こちらについては、安全性の観点から、シューパロ湖のような活用ができないということ、必要に応じて周知して参りたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。君島議員。

●君島孝夫君 再質問ではないのですが、夕張が誇る国内最大規模の多目的ダム、シューパロ湖により多くの観光誘致ができるよう、取り組んでいただきたいと思っております。

次の質問に入ります。

登録有形文化財の夕張鹿鳴館に関し、長期休館しているところではありますが、今後の対応についてお伺いします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の夕張鹿鳴館に関するご質問にお答えいたします。

夕張鹿鳴館に関しましては、市としても長期休館により老朽化による劣化、破損が目立ってきていることを懸念している立場でございます。

以前にもお答えをしたとおりでございますが、一義的には所有者にて修繕すべきものであり、国の登録有形文化財にも指定されておりますことから、引き続き施設の修繕等を所有者に求めていくことが必要であると考えております。

一方で、施設の維持管理には一定の費用がかかることも認識をしておりますので、所有者から施設の利活用や再開に向けた相談があった場合には、真摯

に対応をして参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。君島議員。

●君島孝夫君 所有者が対応するという事は理解いたしますが、市に存在する施設である以上、何らかの対応をすべきではないかと思っております。

このままでは、建物が潰れてしまうのではないかと心配をしております。冬期間の管理を所有者に強く要望していただきたいと思っております。

●議長 大山修二君 ただいまのは、質問ということによろしいでしょうか。

●君島孝夫君 再質問でお願いします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の再質問にお答えいたします。

夕張鹿鳴館につきまして、外観から確認する範囲では雪の影響に加え、経年劣化による老朽化は見られますが、冬期間に備えた建物の保全策は行われている、そのように報告をいただいております。

こうした状況を踏まえまると、市ができる対応といたしましては、建物の点検、管理状況を確認するための現地付近の巡回になると考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。君島議員。

●君島孝夫君 分かりました。

次の質問に入ります。

高齢社会の地域コミュニティ維持について質問いたします。

市内で高齢化が進む中、町内会組織の地域力やマンパワーが不足している地域もあり、生活館等の管理者が高齢化しており、地域コミュニティの維持に向け、地域の皆さんが集まり、触れ合いのできる場所の確保をするため、今後の支援の在り方について、次の質問をいたします。

まず初めに町内会館の問題など、市役所に専用窓口、ワンストップ窓口をつくり、高齢者社会を積極的にサポートする考えは、市長におありでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員のワンストップの窓口設置に関するご質問にお答えいたします。

現在、本市におきましては、高齢者をはじめとした市民の皆様からの相談を、生活福祉課生活福祉係において総合的に受けし、様々な困り事の対応につなげているところでございます。

一方、各種相談や申請等手続きを含めて、総合的に受けするワンストップの総合的な窓口の設置につきましては、本市の職員体制の現状でありますとか、現在の庁舎の構造における部署の配置上、単独の部署として窓口を設置することは、現時点では難しいと考えております。

議員にもご覧いただいていることと存じますが、市庁舎建設基本計画の中では、今後、ワンストップ窓口の必要性等も含めて検討するということを明記させていただいております。現在進めている新庁舎整備の中で市職員の体制でありますとか、想定される庁舎の規模、構造を検討していく中で、本市においてそのような総合的な窓口の設置が可能であるかについて、ほかの自治体の事例などを参考としながら研究をして参りたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 ありがとうございます。前向きに進めていただけるということでよろしく願いいたします。

次の質問に入ります。

生活館は町内会が主に加入をしており、地域の集いや老人会の集会、市民健康講座や介護予防事業、地域サロンなどに利活用されているが、会員数減少や使用減少で収入減に陥り、管理者が非常に厳しい状況が続いているところでございます。

町内会役員の高齢化により、以前は屋根に上って雪下ろしができましたが、今は困難となり、業者に依頼せざるを得ない状態です。現在、管理運営補助金はいただいておりますが、業者への作業費用の一部負担など、今後お願いしたいと思いますが、市長の考えを伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の生活館の屋根の雪下ろしに関するご質問にお答えいたします。

本市の生活館等につきましては、夕張市生活館等設置条例に基づきまして、指定管理者による管理運営がなされており、現在は主に町内会を母体とする運営委員会が指定管理者となっております。

指定管理に当たりまして、市と取り交わしております協定書の規定において、生活館等の施設及び設備の維持管理については、指定管理者の管理業務としておりますので、屋根の雪下ろしにつきましては基本的には指定管理者が行うものと考えております。

生活スタイルの変化に伴う生活館利用者の減少でありますとか、少子高齢化に伴う管理の担い手不足ということでの指摘がございました。そうしたことを管理者様におかれましても、少なからず悩みを抱えているものと考えておりますので、今後も指定管理者との対話により生活館等の現状の把握に努めますとともに、管理運営に関する情報交換などを行って参りたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 再質問ではないのですが、市長のあつやトークでも質問され、広報ゆうばりにも掲載されました。指定管理者の切実な声としてお伝えをしておきます。

次の質問に入ります。

市長は令和6年1定で櫻井議員の一般質問、生活館、集会所の維持管理と利用促進の答弁の最後に、人口減少が進む中であり、現在の生活館等の数が将来にわたり維持することは非常に難しいことで、今後は生活館等の集約も視野に集会施設の在り方を検討する必要があると考えています。条件はいろいろありましたが、このように答弁されました。検討状況は進んでいるのかお伺いします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の生活館等の集約と在り方の検討状況に関するご質問にお答えいたし

ます。

ただいまございましたとおり、令和6年第1回定例市議会における櫻井議員の将来を見据えた場合、生活館を集約することによって維持することも考えられるがとのご質問に対しまして、将来的なこととして集約も視野に、在り方を検討していかなければならない旨の答弁をしたところでございまして、今、具体的な集約の検討を行っているというものではございません。

しかしながら、人口減少が進む中であって、現在の生活館等の数を将来にわたり維持するということは、非常に難しいと考えております。

このことから、生活館等につきましては、議員のほうからもございましたが、投票所でありますとか避難所など、これまで担っていただいた役割を踏まえながら、その在り方について、新たなまちづくりの方針として今後策定する総合計画の策定過程の中で、様々な角度から検証して参りたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 生活館等については、集約できる地域とできない地域とがあると考えます。それを十分に考慮して検討してほしいと思いますが、いかがでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の再質問にお答えいたします。

生活館等の集約を検討する場合にありましては、その生活館等がこれまで担っていた役割を踏まえた上で、必要性を再考するとともに、その地域の事情に合わせた対応を検討していくことになるかと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 今、市長が地域の事情に合わせて検討していきたいということですので、よろしくお願いたします。

以上で、私の質問は終わります。

●議長 大山修二君 以上で、君島議員の質問を終わります。

次に、櫻井議員の質問を許します。

櫻井議員。

●櫻井 暁君（登壇） 日本共産党の櫻井暁です。通告に従いまして、2件、6点質問いたします。

まず1件目ですが、誰もが安心して暮らせる環境づくりについてお聞きします。

夕張市の人口は現在約5,800人となり、近年では1年で300人ほど減少しています。今年10月に行われた市政懇談会では、再生振替特例債の償還が完了する令和9年に向けて、財政再生計画から総合計画への転換が示されました。

夕張市地方版総合戦略では、基本方針として人口減少の抑制を図るとともに、人口減少下にあっても、市民一人一人が自分らしく安心して幸せに暮らせる持続可能なまちづくりを目指すとして、5つの戦略を掲げています。

人口減少の抑制には、若年世代の定住を図ること、それが直接的な効果があることはもちろん、将来的な出生率を考える上でも重要であり、一方で高齢世代の社会減少数も多いことから、高齢者も安心して暮らせるまちづくりの観点も必要です。

そこで、次の点について伺います。

1点目に、総合戦略1の誰もが安心して暮らせる環境づくりの中のアクションプラン7番目に、子育て世代の経済的負担の軽減として、平成25年に小学校就学前の児童の医療費が無償化され、平成29年には中学生まで拡大しましたが、現在は高校卒業まで無償化することが求められています。

令和5年及び令和6年第3回定例市議会、高校卒業までの医療費無償化を求めた際、国の施策を踏まえて研究する、また北海道市長会として全国一律の国の制度創設を要望しているという答弁でしたが、財政再生団体終了後を見据えて、夕張市独自の政策も含めて検討するお考えはあるのか伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の高校卒業までの医療費無償化に関するご質問にお答えいたします。

現在のところ、高校卒業いわゆる18歳までの医療費無償化については、その実施を検討している段階にはございません。

先ほどご指摘がありましたように、令和6年第3回定例市議会における櫻井議員からご質問をいただきました答弁の繰り返しとなりますが、北海道市長会として全国一律の国の制度創設を要望しているところでございまして、この実現に向け、今後も要望を重ねて参ります。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
櫻井議員。

●櫻井 暁君 医療費は個人によってばらつきがあり、予算を見込みにくい、難しいことは理解できますが、近隣市町村が高校卒業までの無償化を実現している現状から、どうしても不公平感が生まれ、定住を難しくさせる要因にもなるのではないのでしょうか。

先ほど千葉議員からもありましたとおり、先日、11月25日に夕張高校生と夕張市議との交流授業があったのですが、そこで子育て世帯のための医療について探求を行っているグループからも、医療費無償化を求める強い要望が出ていました。

安心して暮らせるという点では、医療は大きな要素です。ぜひこれからも全国一律の国の制度創設を要望し続けると同時に、夕張市独自の政策としても、高校卒業までの医療費無償化を検討することを要望します。

では、2点目です。

令和5年第2回定例市議会、また令和6年第3回定例市議会において、小中学校の給食費無償化の実現を求めたところ、子育て政策全体の中で検討し、今後も国の動向を継続的に注視していくという答弁でしたが、現在までの進捗状況を伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の小中学校の給食

費無償化についての進捗状況についてのご質問にお答えいたします。

櫻井議員ご指摘のとおり、令和5年第2回定例市議会におきましては、学校給食の無償化につきまして、子育て政策全体の中で検討していく旨を答弁したところでございます。また、令和6年第3回定例市議会においては、国の動向を継続して注視するとの答弁を申し上げたところでございます。

これまで国の検討状況を注視してきたところでございますが、昨今、文部科学省において令和8年度から学校給食費の無償化に向けた制度改正の検討が進められているものの、具体的な制度内容については現時点で詳細が示されていない状況にございます。

またあわせて、国においては、物価高騰の影響を受ける生活者や事業者への支援を継続するため、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の拡充が検討されております。その中で、物価高騰に伴う子育て世帯支援として、小中学校における学校給食費への支援に活用できる可能性があるものの、こちらも現時点で詳細が示されていない状況にございます。

このような状況を踏まえ、国における両制度の具体的内容を引き続き注視をしつつ、本市としても、学校給食費の無償化について検討を進めて参りたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
櫻井議員。

●櫻井 暁君 国においては、学校給食費の無償化について小学校から導入し、その後、できる限り早期に中学校へも拡大するとされていますが、夕張市は令和6年度から小中一貫教育を進めていることから、小中学校ともに同時期に無償化を導入すべきと考えますが、市長としてはどのようにお考えなのかお聞きいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の再質問にお答えいたします。

櫻井議員ご指摘のとおり、国では小学校から段階的に給食費の無償化を導入する方向で検討が進めら

れていると、そのように承知をしております。本市といたしましては、令和6年度から小中一貫教育を推進していることから、可能であれば小中学校を同時期に無償化することが望ましいと考えております。

しかしながら、先ほど答弁申し上げましたとおり、国における制度の具体的な内容でありますとか、財源措置については、現時点で詳細が示されていない状況でございます。

このため、国の制度設計の方向を的確に見極めながら、本市としての導入時期ですとか実施方法について、引き続き慎重に検討して参りたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
櫻井議員。

●櫻井 暁君 実施方法などはこれから検討されるということですが、学校給食費の無償化を導入する場合、対象の範囲をどこまでかということも重要ではないかと思えます。

学校現場で働く方々は、全て児童生徒のためにご尽力いただいているわけですね。私は、児童生徒だけではなく、学校で働く教職員、また特別支援員なども全ての方々を対象とするべきではないかと考えていますが、市長の見解を伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の再質問にお答えいたします。

学校給食費の無償化の対象範囲につきましては、議員ご指摘のとおり、児童生徒のみならず教職員や特別支援員の方々も、日々教育現場において重要な役割を担っていただいているものと認識をしております。単なる食事を取っているということではなくて、いわゆる検食ということも兼ねて、児童生徒の皆さんと一緒に給食を取られているという認識でございます。

しかしながら、先ほども答弁申し上げましたとおり文部科学省における制度設計、それから重点支援地方交付金の具体的な活用範囲につきましては、現時点で詳細が示されていない状況でございます。

このため、まずは国の制度内容ですとか、財源措置の方向性、これを十分に把握した上で、本市として無償化の対象をどこまでとすることが妥当かということについて、引き続き慎重に検討して参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
櫻井議員。

●櫻井 暁君 物価高騰が続く中、どこの家庭もやりくりをしながら日々生活をしています。ぜひ、学校に携わる方々が分け隔てなく支援を受けられるような臨時交付金の活用をしていただきたいと思います。

次に、3点目をお聞きします。

アクションプラン8の高齢者の活動の場、また居場所づくりと関連してお尋ねしますが、高齢者の活動の場であり、生活を支えていたシルバー人材センターの閉鎖後、商工会議所が相談窓口となり、利用者と働き手のマッチングを行っている状況ですが、現在までの対応件数と成果を伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員のシルバー人材センター解散後の現状に関するご質問にお答えいたします。

夕張商工会議所の雇用対策総合窓口は、就労希望者、それから市内事業者からの相談や情報提供の橋渡し役を目的とした雇用に関する総合的な窓口となっております。具体的には、市内事業者の雇用に関する情報の集約、就労意欲がある高齢者へのサポートなどを想定しておりまして、マッチングとしての実績はございません。

一方、事業者及び就労希望者からの相談を通じまして、雇用対策総合窓口が調整役を担い、就労機会の確保につけた事例の報告は受けております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
櫻井議員。

●櫻井 暁君 その窓口で、例えばトラブルや課題といったものがないかをお聞きいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の再質問にお答え

いたします。

トラブルについては把握をしておりません。また、相談を通じて就労に結びついたことから、課題についてもないものと承知をしております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 窓口については今のところうまく動いているということですが、今までシルバー人材センターのサービスを受けていた高齢の利用者の方々の中には、シルバー人材センターがないために、どこに連絡していいのかわからないとお困りの方も中にはいらっしゃると思います。そのような市民への方策をどのようにお考えでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の再質問にお答えいたします。

業務を依頼するための相談窓口ではございませんけれども、日頃関わりのある部署として総合市民相談を担当してございます生活福祉課生活福祉係が高齢者の相談先であることをご紹介しております。

既に今年の冬の除雪に対するご相談など、数件対応していると、そのように報告を受けております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 今は、福祉課での対応とされているということですね。

依頼の内容としては、これからの季節、やはり家の周りの除雪がメインになると思います。お話を聞くと、あちらこちらに連絡をして、知人や近所の方に頼むことになったケースや、市内業者に頼むという方のほかに、市外の事業者にも来てもらうことになったという方もいました。

そこで今後、ワンストップで分かりやすく市民に情報を届けるような取組が必要ではないかと考えます。市外では、室蘭市、南幌町、芽室町などでくらしの便利帳というものを発行しています。

このような大がかりな冊子ではなくても、例えば困ったことガイドなどとして、雪に困ったらこちら、

草刈りはここ、お墓掃除ならここといったように、主立った簡単な項目と連絡先が分かるような紙面も活用しやすいのではないかと考えます。そのようなワンストップサービスについての市長のお考えをお聞かせください。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の再質問にお答えいたします。

ただいまご質問いただきました内容について、例えば除雪についてでございますが、需要と供給が不透明な状況の中、一部の対応可能な民間事業者のみが、例えば掲載された場合、これは行政が特定の事業者の紹介をしていると受け取られるおそれがあるなど、公平性の観点で難しい面もございます。

先ほどもご答弁をさせていただきましたが、まずは総合市民相談を担当する生活福祉課生活福祉係が相談先になりますので、ご相談をいただきたいと考えているところでございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 私自身も生活相談を受け付けておりまして、担当となる場所へおつなぎすることはありますが、シルバー人材センターが閉鎖されてから、関連する具体的なお困り事が少ない状況です。

夕張社協にもお聞きしましたら、有償ボランティアとしての活動の場に関するお問合せが1件、草刈りをお願いしたいという依頼が3件だったということです。その草刈りはシルバー人材センターを利用していたときと同じ刈払機での本格的な草刈りだということで、ボランティアでは対応が難しく、お断りしたということでした。

全体的に不思議なほど相談が少なく、これで何事もなく済むのであれば解決されたことになるかもしれませんが、懸念されるのは、ひどい状況になるまで放置していたり、また我慢しているケースです。

雪で換気口が埋まるような緊急事態の場合、的確に助けを求めることができるような手だてが必要で、特に除雪、草刈り、お墓に関しては、高齢者の

生活に密着した問題ですから、その部分を支援が行き渡るようにすれば不安が解消されて、市外への転出も防げるのではないのでしょうか。

隠れた困り事を想定した安心して暮らせるための環境整備を求めます。

では、続いて2件目の質問です。

持続可能なまちづくりについてお聞きします。

市政懇談会あつやトークにおいて、来年1月から人口ビジョンの素案を作成していくという説明の中で、厚谷市長は、小さくても強く輝く安心と希望のまちという言葉が使われています。

今後も人口減少が進む前提で、その速度を緩やかに保ち、財政と地域の再生を行っていくためには、これからも住民の日々の生活を守ることが必須であると考えます。

1点目に、第2期夕張市総合戦略でのコンパクトシティの推進について、現在までの達成状況と理想とする具体的な最終目標はどのようなものか、市長の見解を伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員のコンパクトシティの推進に関するご質問にお答えいたします。

第2期夕張市地方版総合戦略の中で、コンパクトシティの推進については、居住機能や行政機能、医療、福祉、商業等の都市機能の立地誘導に関する立地適正化計画を策定し、持続可能な地域社会の構築に向けてコンパクトシティの取組をさらに推進していくこととしているところであります。

令和3年3月に策定した夕張市立地適正化計画では、おおむね20年後の長期的な将来都市像を見据えることを目標に、令和22年を目標年次として居住誘導区域、都市機能誘導区域を設定し、誘導施策を実施するところがございます。

これら施策の現在までの達成状況でございますが、都市機能を維持、誘導するための施策として、市立診療所移転による地域医療、介護健康コミュニティの拠点づくりでありますとか、拠点複合施設りすた、それから、丘の上こども園といった子どもたち

の居場所づくりなどを実施してきております。

また、居住を維持、誘導するための施策といたしまして、民間賃貸住宅の誘導、それから住宅取得、リフォーム等への支援による定住促進などを実施してきております。新庁舎の移転改築も都市機能誘導の一つとして少しずつ進んでおりまして、確実に歩みを進めていると申し上げたいと思います。

次に、最終目標でございますが、人口が減少していく中で、この夕張で将来にわたり安心して幸せに暮らし続けることができるよう、持続可能なコンパクトなまちになることが理想というのが最終目標であります。

若菜、清水沢、紅葉山に地区の特徴を生かした都市機能が集積をされ、若菜、清水沢、沼ノ沢、紅葉山の居住誘導区域では、人口密度が一定程度維持されることを目標としております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 令和22年までに市内を3か所にまとめるということで、市民の皆さんにはなかなか遠い話というか、実感が湧かないような、正直なところであると思うのですね。

私が地域を回って思うのは、コンパクトシティの推進が進められたときと今とでは、皆さんの捉え方が違ってきているというところですね。高齢者が増え、体力の低下が進んで、来年がどうなるかも分からないという方々に、令和22年のゴールは見通せないのではないかと思います。

どうせ自然にいなくなるまで待っているのだろうという方もいますし、あと2、3年我慢したら子どもの住む都会に行く予定だという方、また集合住宅にお住まいの方の中には、少しでも元気なうちに中心部に移りたいのだけれど踏ん切りがつかないという方も出てきています。古い家の寒さから解放されるだけでもかなり楽になるケースもあると思います。

そこで地域を集約することで、どのようなメリットがあるか、点在する住民と改めて対話をする機会を設けて、スピード感を持った対応をするべきでは

ないかと考えますがいかがでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の再質問にお答えいたします。

コミュニティーの維持など、生活上の安心につながる面から移転をしたいという方がいらっしゃる一方で、住み慣れた今の地区での生活を続けたいという方もいらっしゃるなど、様々な考え方が存在してございます。

現在、市では、居住誘導区域内で移転の受入先となる市営住宅の空き戸数が少ないという状況もありますので、移転誘導につきまして、これは老朽化が、例えば著しい住宅にお住まいであるとか、入居戸数の少ない住宅であるとか、そういった条件を勘案しながら、移転交渉を行っているところでございます。

議員ご指摘のとおりスピード感を持って進めていくということは本当に大切でございますが、受入れ住戸の確保でありますとか、移転誘導が市外移転のきっかけになるといった側面もございまして、住宅の老朽度でありますとか、入居率などの条件を見極めながら、焦らず慎重に進めることがコンパクトシティの推進では大切であると考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 夕張の地形は、炭鉱の坑口ごとにつくられて枝葉に分かれた独特の地形で、広い土地が少なく、コンパクトにするには難しい条件ばかりかと思えます。戸建て住宅も多いため、そもそも移動が困難だったり、集合住宅ではコミュニティーごと移れるなら移りたい。でも場所がないといったこともあり、線引きしにくい状況が続いています。

市長も南部地区にお住まいなので、肌で感じられているからこそ気持ちがお分かりかと思いますが、ときには厳しい判断も優しさではないかと思っております。明確な方向性を示すことで、その後の住民の暮らしやすさや快適さにつながると考えます。利便性の向上、また市街地の活性化、行政コストの削減、地域環境への負担軽減などの効果を挙げた上

で、再度、住民に理解を求め、協力を促し、実情に合わせた支援をしていただきたいと思います。

次に、2点目ですが、同じく第2期夕張市総合戦略での持続可能な交通体系の維持について、現在までの成果を伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の第2期夕張市総合戦略での持続可能な交通体系の維持についての成果に関するご質問にお答えいたします。

市内線の公共交通につきましては、限りある交通資源や財源の中ではございますが、交通事業者のご協力を得まして、路線バス市内南北10往復、また路線バス空白地域におきましては、デマンド交通及びタクシー乗車代金補助制度を継続することができ、総合戦略の目的である交通体系の維持に努めております。

また、夕鉄バスの協力を得まして市内路線バスのダイヤは乗り継ぎで、新夕張駅からJRを一定程度利用できるようになっております。

市外線の公共交通につきましては、民間の市外線路線バスの廃止に伴い、令和5年10月より市が実施主体となり市外線デマンド交通を開始し、交通体系の維持に努めて参りました。

今年の5月より利便性向上のため、市外線デマンド交通については北広島市までの延伸を実施しており、月の利用者数ですと今年4月の515名に比べまして、5月以降は月平均で約680名の利用があり、150名程度、利用者数が増加をしております。

今後も限りある公共交通資源と財源の中であることには変わりはありませんけれども、交通事業者と協力し、持続可能な交通体系の維持に努めて参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 市外線デマンド交通が北広島まで延びたということで、待ち時間が少なく移動でき、使い勝手がよくなったという声を多く聞いています。この点はとてもよいと思っています。

市内のデマンドも一定数繰り返し利用され、慣れたら便利だとお聞きしています。今も150名程度増加しているということですね。

しかし、現在の利用者の予備軍とされる団塊の世代の方々には、登録はしたけれども乗ったことがない、また本数が限られていて不便と言われます。調べによると、運転免許を持って自分で移動できていた年齢層が、車に乗れなくなる2025年という表現が出ていました。つまり、住民の公共交通へのニーズが一気に上昇する試算でもあったわけです。

全道の運転免許の自主返納数は、2010年に1,776人だったのに対して、2024年では1万6,594人に増加しています。

そこで、今後、高齢者の免許返納後の対策として、例えば公共交通の増便や車を廃車にするときの廃車費用の割引など、夕張の実情に合わせた新しい取組が必要になるのではないかと考えますが、その点についてはいかがお考えでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の再質問にお答えいたします。

まず、デマンド交通の増便というところのご要望もございましたが、この点につきまして運行事業者の協力もありながら、必要とする方が利用できる交通体系というのが現状であると考えております。

また、今後、利用者の増ということを見据えた上で申し上げますと、市外線デマンド交通といたしましては、4便全てを24名乗りのマイクロバスで運行することも可能にするなど、そうしたことを通じて利用者の増に向けた対応も行っております。

そのため、現時点では市外線デマンド交通の増便等については必要ないと考えてございますが、引き続き限られた資源を有効に活用しながら、公共交通体系を維持できるように努めて参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 私が聞いた中では、免許返納をしなければならなくなったら、夕張から出ていくので

はないかと思うという方がほとんどでした。これは、現在の公共交通の利用者がもともと車を持っていないという方もいたのに対して、これから利用者になる方は、ほぼ車を活用してきたことの違ではないかというふうに思います。

そもそも公共交通に慣れていないし、自由に行動できていた現実から公共交通へ変わることのギャップが強いと思います。もともと必要な方だけが乗ればいいシステムかもしれませんが、持続可能なまちづくりにおいては、試行期間も含めて、より乗りやすくする工夫がこれから必要になってくるのではないのでしょうか。

また、要望として、市内の70歳以上への敬老パスについては、今後もぜひ100円で継続していただきたいと思っています。

最後に、3点目をお聞きします。

夕張に移住定住していただくためには、その土地の魅力が住み続けられる条件となると考えますが、夕張市の魅力とは何か、市長の考えを伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の夕張市の魅力とは何かということに関するご質問にお答えをいたします。

様々な観点で挙げられる魅力というのは、非常に豊富にあるというふうに考えておりますが、その中で夕張の魅力としては、やはりこの土地に住む方々、人と人とのつながりにあると考えております。古くは全国から人材を募集していた石炭産業が栄えておったわけでもございまして、そうした時代から夕張市は様々な人を受け入れられる柔軟性を培ってきたものと考えております。

現在、通信技術が発達をした現代においては、オンライン上で物事を済ませることも当然できますし、それが利便性の向上につながるとも言われておりますが、その一方で、やはり人とじかに向き合うことからこそ得られる関係性のよさ、心地よさというものもあると考えます。

そのような心持ちとしての安心感を求めるような

方々にとっては、夕張市は移住定住の選択肢の一つになり得る、そのように考えております。

一方で若い世代の方々にとっては、働く場として魅力的であるということも必要だと考えております。このことにつきましては移住定住を促すということだけではなくて、市内経済の活性化や産業の振興という観点からも、企業誘致といった形にとどまらない魅力的な働く場の創出に引き続き取り組んで参ります。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 私も夕張には豊かな自然、また歴史や文化、そこから生み出された、今も言われました温かな人たちがいて、全て夕張にしかない個性的な魅力がたくさんあると思います。高校生からも、夕張の誇れる部分は人だとか自然という言葉がありました。

その上で、今後、再生団体終了後を見据え、取捨選択をしなければならないと思うのですが、その中でもこれが夕張の魅力だというふうにはっきりさせて、重点を置く取組が必要だと考えますが、いかがでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の再質問にお答えいたします。

先ほどご質問いただいた際に、夕張市の魅力としてはこの土地に住む方々、人と人とのつながりにあるとそうように答弁をさせていただきました。

この人と人をつなぐに当たりましては、やはり地域のコミュニティーを維持していくということが必要になりますので、これまでも進めて参りましたコンパクトシティの取組を推進していきたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 先ほどの高間議員のお話とかぶりですがけれども、今月発行された広報ゆうばりの中の市長コラム、私も読ませていただいております。

ちょうどコンパクトシティについて書かれておりました、その中で住み慣れた夕張で安心して暮らし続けていただく。また、子どもたちが暮らしたいと思うまちにするとありました。あつやトークで話された内容だと思います。

今、市民にはあと少しで自立したまちになるという希望と、またこの先どうなるのだろうかという不安が相まって広がっています。安心して暮らし続けたいと思うまちづくりには、行政、住民、事業者、みんなで協力し合って一緒につくり上げていくという意思統一が大切になると思います。

そのためには、市が先頭となり、進む方向をシンプルに明確に示すことが求められると思います。

以上で、私の質問を終わります。お疲れさまでした。

●議長 大山修二君 以上で、櫻井議員の質問を終わります。

以上で、通告されました質問は全部終了いたしましたので、日程第1、一般質問はこれをもって終結いたします。

●議長 大山修二君 以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

本日は、これをもって散会いたします。

午後 2時16分 散会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

夕張市議会 議長 大山 修 二

夕張市議会 議員 徳 谷 康 憲

夕張市議会 議員 荒 井 周 司